

「これまでは考えられないような高密度で 精細なデータは、新たな技術提案も可能に!」

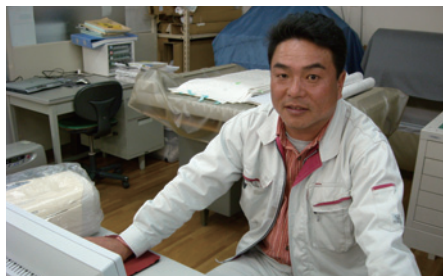
計測データを高密度に高速3次元化！計測作業の効率アップ&コスト軽減を実現。

多くの建設会社からの測量委託を手がける(株)小林コンサルタントでは、砂防ダム工事における既存構造物の確認作業にトプコンの最新3Dレーザースキャナー「GLS-1000」を活用した。同工事は年度・工区・工事会社が複数にまたがっており、設計図面と現地の照合作業を行う必要があり、また、コンクリート吹き付け箇所の体積を正確に測定するためには、3Dスキャナーによる高密度な計測が不可欠であった。

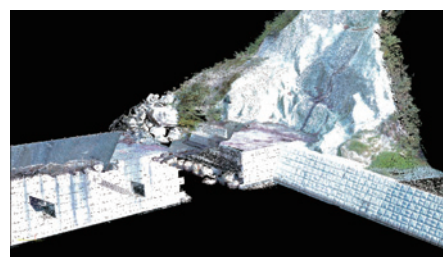
小林佳人社長は「お客様からの要望も高い高密度で精細な3D計測に対応すべく、同業他社と差別化を図る意味で導入を決めた。海外製品の情報も確認したが、国産品の日本語対応ソフトや充実したサポート体制などを総合的に判断し、トプコンのGLS-1000を選んだ」と導入の経緯を語った。

同社では今回の砂防ダム工事の確認作業や、切削オーバーレイ工事におけるアスファルト舗装面の縦横断測量などにGLS-1000を利用している。こうした現場での計測で得られたデータについて小林社長は、「従来の方法では考えられ

ないような高密度で精細なデータが高速に得られるので、すばやく正確な成果が作成できる。委託元の建設会社からも、我々の技術提案などで好評を得ている」と語る。同社では、点群データをビューアーで建設業者へ配布し、現場状況の把握に役立てている。「縦横断測量に関しては、GLS-1000で高密度な点群を計測し、生成した面から自由に断面を切り出せることで正確な材料数量計算が可能となった」と導入のメリットを語る小林社長。さらに、「急傾斜地や法面などで作業員が立ち入りせずに非接触で測定できるので、安全面とコスト・作業効率の面でメリットは大きい」と述べた。



小林社長



構造物の変位計測などでは、従来は点で観測していたものを、3Dスキャナーでは高密度に面的に捉えることができる。こうした計測は単なる作業効率アップや作業コスト軽減だけでなく、今までになかった新しい作業提案も可能となる。小林社長は「今後は自社のフォトバルーンを利用した空撮による現場の写真と、GLS-1000の計測データとをコラボレートした提案をしたい」と将来を見据えて3D計測の可能性をさらに広げた活用に期待を寄せている。

【ユーザー名】 株式会社小林コンサルタント
【代表取締役】 小林佳人
【使用機種】 3Dレーザースキャナー GLS-1000